

指導の手引き

幼児期と児童期の学びをつなぐ



兵庫県教育委員会

はじめに

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（文部科学省：平成22年11月）において、新たな幼保小接続の仕組みが示されて以来、幼児と児童を中心とした交流活動から、教職員の交流や相互参観、合同研修等が進められ、双方の教育について理解を深める取組が進められてきました。しかし、幼児期の学びと発達の連続性を確保するための教育課程の接続は十分に行われているとは言い難い状況です。その要因の一つとして、幼児期の教育と小学校教育における教育課程の構成原理や指導方法等の違いから、幼児期の教育における学びの過程が見えにくく、接続期にアプローチする姿が曖昧であることが考えられます。

平成26年文部科学大臣の諮問を受け、次期学習指導要領の改訂に向けた検討が進められ、平成28年12月の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」では、学校教育を通じて育てたい姿と「生きる力」の理念が具体化され、育成を目指す資質・能力として三つの柱が示されました。この資質・能力は、幼稚園から高等学校までの各学校段階を通じて体系的に育んでいくことが重要であると示されました。

このことを踏まえて、幼児期の教育においては、小学校以降につながるこれからの時代に必要な資質・能力を、遊びを通した総合的な指導を行う中で一体的に育むとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を観点として、接続期の教育課程であるアプローチカリキュラムの充実・改善を図り、質の高い学びを育んでいくことが求められています。

そこで今年度は、アプローチカリキュラム作成に必要な接続期にアプローチする姿、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を明らかにする実践研究を推進してきました。

本冊子は、この研究の成果のまとめとして、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を導き出す一つの方策を示すとともに、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目で分類して示しています。幼児教育機関においては、本冊子を研修等で活用し、学びの円滑な接続に向けたアプローチカリキュラム作成の取組が一層推進されるよう心から願っています。

最後になりましたが、本書を作成するにあたり、ご協力をいただいた幼児教育支援委員会及び実践協力園の皆様に深く感謝を申し上げます。

平成29（2017）年3月

兵庫県教育委員会

もくじ

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために

- 1 幼児期から児童期への学びの接続における課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 課題解決に向けた仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

研究を進めるにあたって

- 1 これからの時代に必要な資質・能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 3 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」とは・・・・・・・・ 7
- 4 接続期における教育課程（アプローチカリキュラム）・・・・・・・・ 7

研究内容

- 1 研究の目的・・ 8
- 2 研究内容・・ 8
- 3 具体的な手順・・ 9
- 4 実践事例・・ 14
 - 事例1・・ 14
 - 事例2・・ 15
 - 事例3・・ 16
 - 事例4・・ 17
- 5 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」
 - (1) 資質・能力の三つの柱による分類・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 - (2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目による分類・・・・・・・・ 24

研究のまとめ

- 1 幼児期の学びを分類することで・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 2 アプローチカリキュラム作成に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために

1 幼児期から児童期への学びの接続における課題

幼児期の教育と小学校教育は、教育課程の構成原理や指導方法等において、下記の表のように様々な違いが見られます。そのため、幼児期の教育において学びが育まれる過程や育まれた学びが見えにくい上に、各教科へのつながりをイメージしにくいことが、学びの接続を難しくしています。

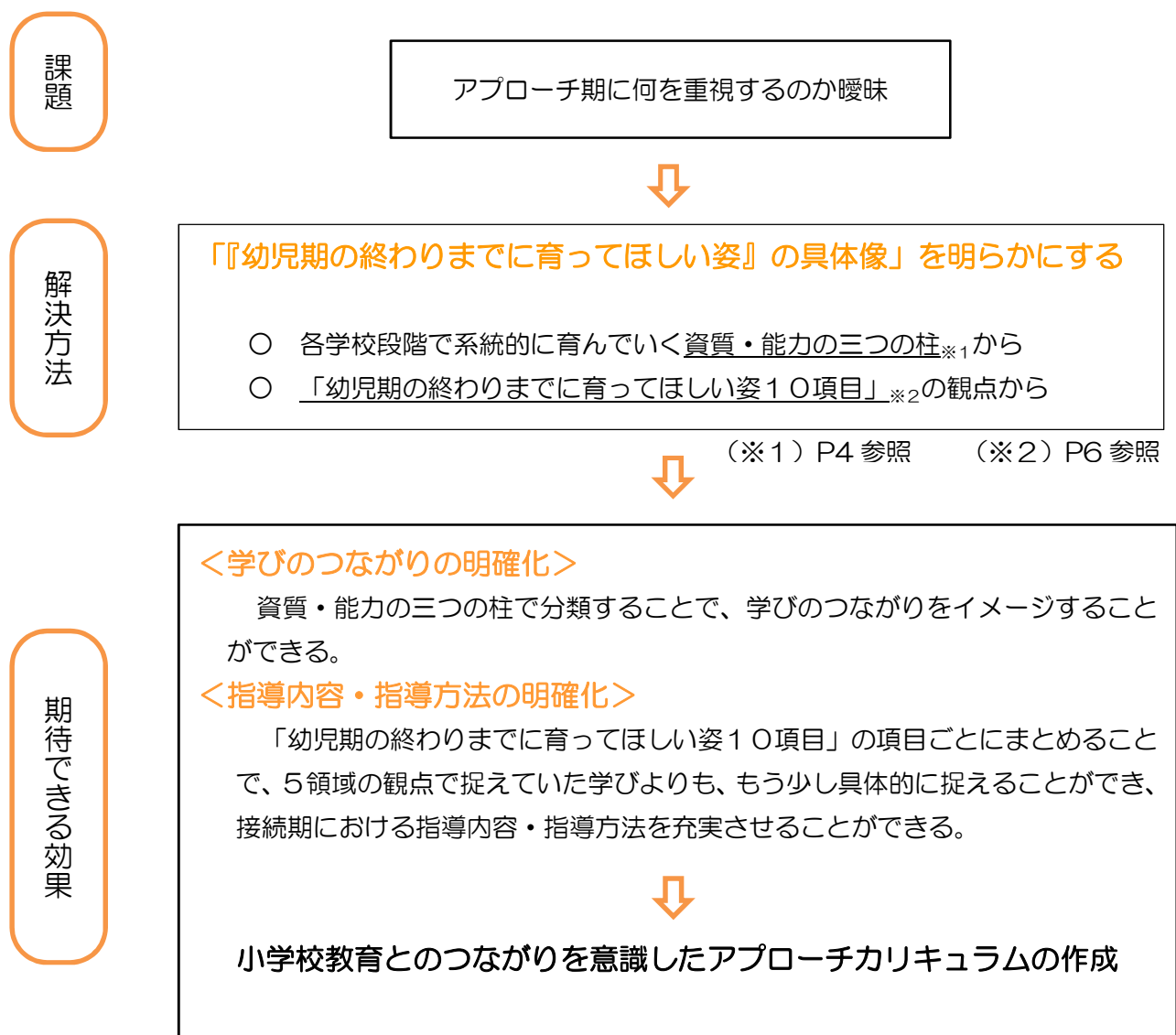
	幼児期の教育	小学校教育
教育課程の基準	幼稚園教育要領・保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	小学校学習指導要領
	健康・人間関係・環境・言葉・表現	国語・社会・算数・理科・生活・音楽・ 図画工作・家庭・体育・道徳・外国語活動・ 総合的な学習の時間・特別活動
教育課程の 構成原理	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
	方向目標 (その後の教育の方向付けを重視)	到達目標 (具体的な目標への到達を重視)
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	教科等の目標・内容に沿って選択された 教材による指導
学びの形態	学びの芽生え(無自覚な学び) 学ぶことを意識していないが、楽しい こと好きなことに集中することを通 じて、様々なことを学んでいくこと	自覚的な学び 学ぶことについての意識があり、与えら れた課題を自分の課題として受け止め、 計画的に学習を進めていくこと

そこで、幼児期の学びと発達連続性を確保するため、幼児期の終わりから児童期の初めにかけて接続期を設け、下記の2点に留意し、幼児期においてはアプローチカリキュラム、児童期においてはスタートカリキュラムを編成することが求められるようになりました。

- 幼児期においては、今育まれている学びが、どのようにつながっていくのか見通す。
- 児童期においては、今の学びがどのように育まれてきたのか見通す。

しかし、就学期の接続期(アプローチ期)に何を重視して小学校への就学につなげていくのか、明確にできていないことが要因になって、接続期における教育課程の充実・改善は進んでいないのが現状です。

2 課題解決に向けた仮説



3 今年度の取組

(1) 可視化した学びを整理し、資質・能力の三つの柱で分類する。

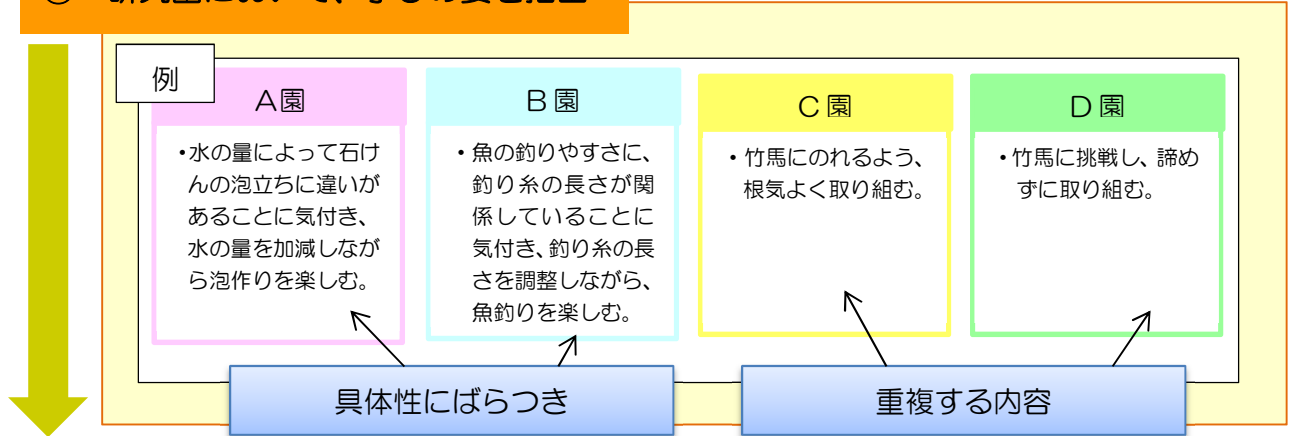
資質・能力の三つの柱で分類した『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像としてまとめ、小学校教育への学びのつながりがイメージできるようにする。

(2) 可視化した学びを整理し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10項目」で分類する。

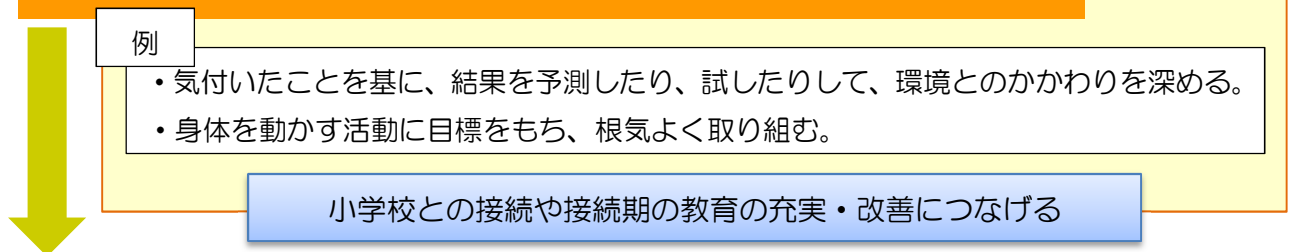
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目」で分類した『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像としてまとめ、接続期の教育の充実・改善につながるようにする。

(構造図)

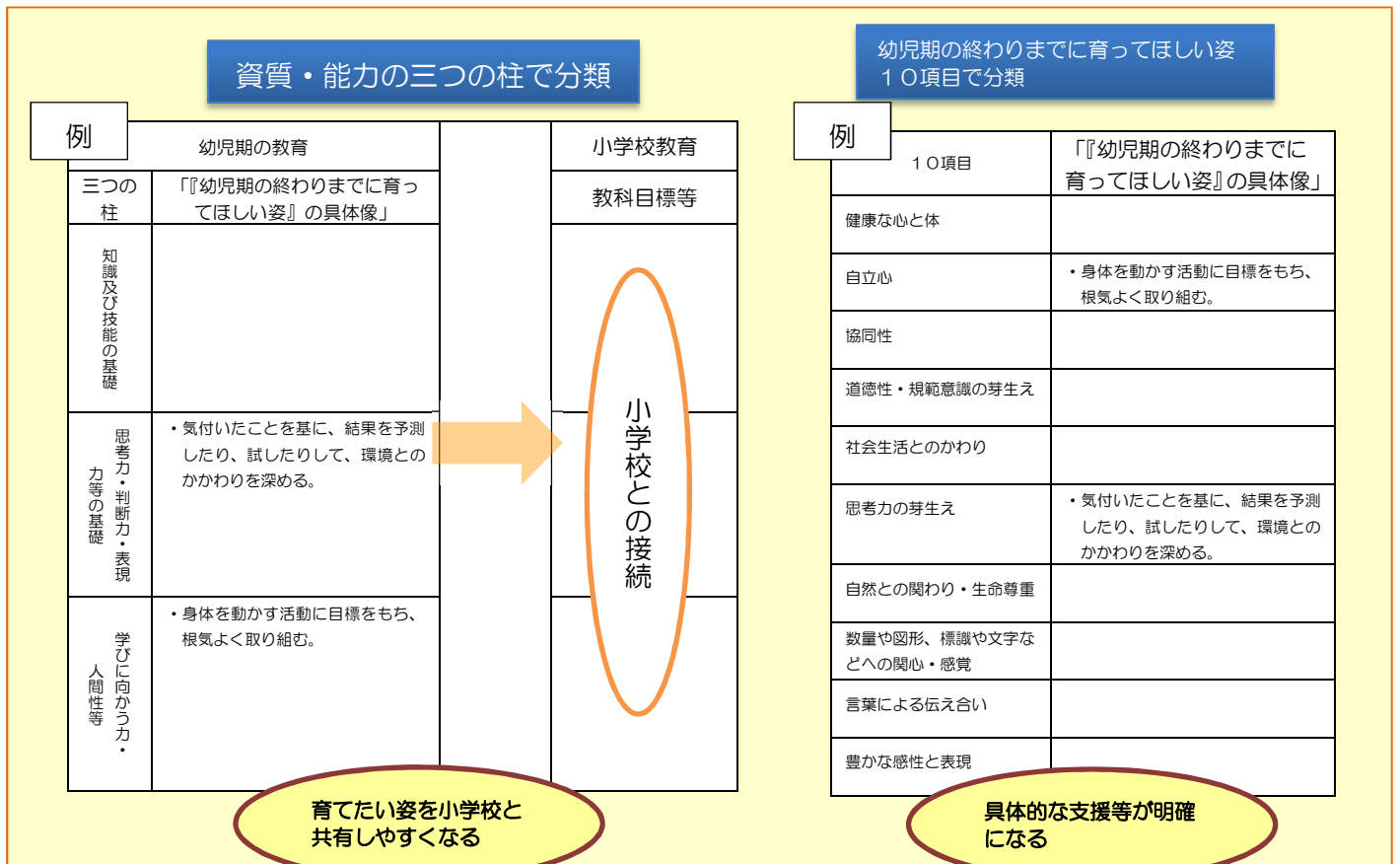
① 研究園において、学びの姿を抽出



② 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像として整理



③ 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を分類



研究を進めるにあたって

1 これからの時代に必要な資質・能力

平成26年文部科学大臣の諮問を受けて、次期学習指導要領の改訂に向けた検討が進められ、平成28年12月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」が出されました。

これからの時代を生きていく子ども達には、複雑で予測困難な社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けるようにすることが重要です。こうした力は、学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」を改めて捉え直し、時代の変化という「流行」の中で未来を切り拓いていくための力の基盤として、学校教育における「不易」たるものの中で育まれるものです。

今回の改訂では、学校教育を通じて育てたい姿と「生きる力」の理念が具体化され、育成を目指す資質・能力として三つの柱が示されました。

幼児期において育みたい資質・能力は、幼児期の特性から、小学校以降のような、いわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通して育むこととし、次のように整理されました。

- 知識及び技能の基礎
豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、わかったり、できるようになったりする。
- 思考力・判断力・表現力等の基礎
気付いたことや、できるようになったことなども使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。
- 学びに向かう力、人間性等
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

育成を目指す資質・能力の三つの柱は、「高等学校を卒業する段階で身に付けておくべき力は何か」という観点や、「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」という観点を共有しながら、各学校段階において、系統的に育てていくことから、幼児期の教育においても、5領域のねらい及び内容を踏まえ、遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育てていくことが求められます。

幼児期において育みたい資質・能力（イメージ）

小学校
以上

<知識及び技能> <思考力・判断力・表現力等> <学びに向かう力、人間性等>

幼児期の教育

〈環境を通して行う教育〉

知識及び技能の基礎

- ・基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得
- ・規則性、法則性、関連性等の発見
- ・様々な気付き、発見の喜び
- ・身体感覚の育成
- ・日常生活に必要な言葉の理解
- ・多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得等

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・試行錯誤、工夫
- ・予想、予測、比較、分類、確認
- ・他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・言葉による表現、伝え合い
 - ・振り返り、次への見通し
 - ・自分なりの表現
 - ・表現する喜び等

遊びを通しての
総合的な指導

- ・思いやり ・安定した情緒 ・自信
- ・相手の気持ちの受容 ・好奇心 ・探究心
- ・葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・話し合い、目的の共有、協力
- ・色、形、音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・自然現象や社会現象への関心等

学びに向かう力、人間性等

※ 三つの円の中で例示される資質・能力は、5領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

※ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月）及び「幼稚園教育要領（案）」（平成29年1月）に基づき、義務教育課にて作成

2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自ら必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

ここで示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領に示された5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものです。

※ 幼稚園教育要領（案）より抜粋

3 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像とは

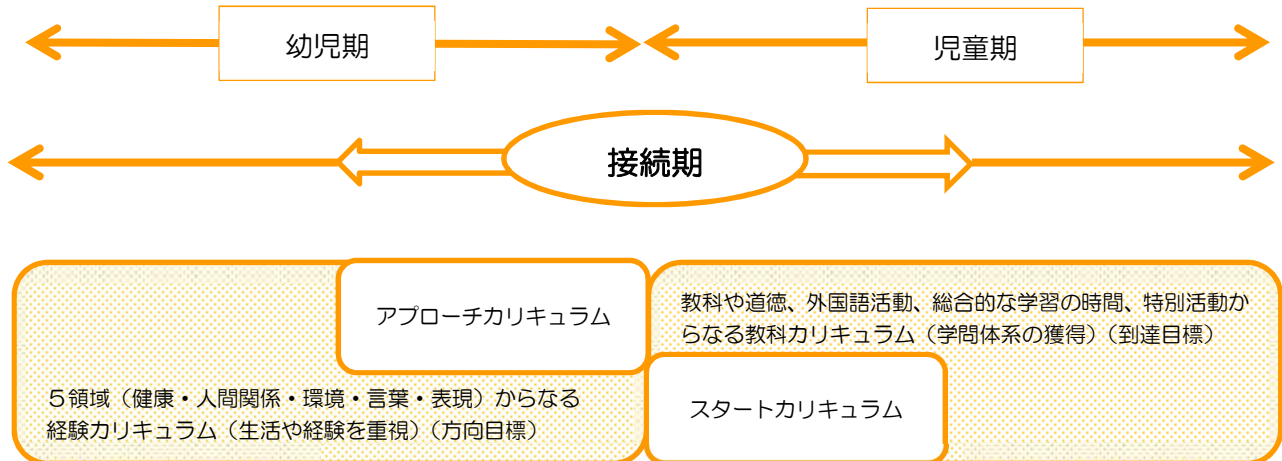
本冊子で使う『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像とは、実践協力園において、遊びを通した総合的な指導の中で、幼児期修了までに育まれた姿を整理し、抽象化した姿です。

4 接続期における教育課程（アプローチカリキュラム）

幼児の発達や学びの連続性を保障するためには、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが重要です。そのためには、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間、接続期を設けることが必要です。接続期の就学前を「アプローチ期」、就学後を「スタート期（入学期/入門期）」とし、アプローチ期における教育課程のことを『アプローチカリキュラム』と呼びます。

接続期は、幼児期の教育から小学校教育への準備期間や慣れの期間ではなく、子どもの発達や学びの連続性を踏まえて「接続期」を捉えることが必要です。接続期における「アプローチカリキュラム」は、幼児期の終わりまでに育ってほしいことを具体的に明らかにし、一人一人にその力が育っているかを確認し、終了までに育てることを目指す教育課程です。

「アプローチ期」をどの期間とするかは、各園の実態に応じて適切な期間を設定していくことが必要です。その際、幼児の発達として、「人間関係が深まり、学び合いが可能となる時期」であり、具体的には、“友達とともに探究する”、“興味・関心が深まる”、“自分に気付く”、などの姿が見られるようになる時期が適切であるといわれています。



研究内容

1 研究の目的

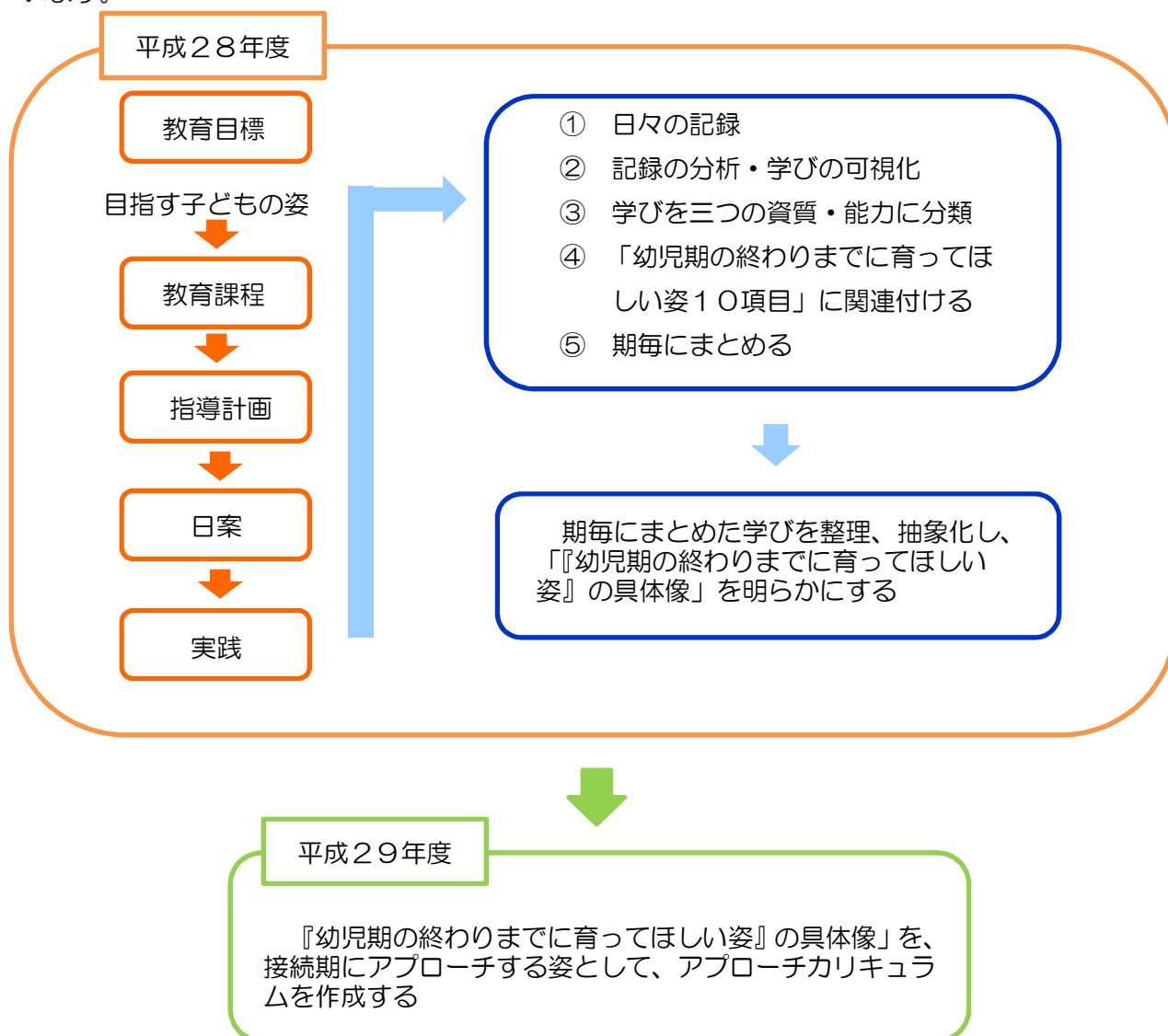
本研究は、小学校とのつながりを意識したアプローチカリキュラム作成を目指して、接続期においてアプローチする具体的な姿をイメージするため、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を明らかにすることを目的としています。

本指導の手引きでは、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を導き出す一つの方法を示すとともに、その方法を通して導き出された『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を示しています。

この姿は、次年度のアプローチカリキュラム作成の際、これまでの学びの確認や接続期の指導内容、指導方法の指標として活用します。

2 研究内容

本研究では、下記の手順で、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を明らかにしています。



3 具体的な手順

① 日々の保育をエピソードの記録として残す。

事例の中で幼児が心を動かしたことをタイトルにする。

★「わらび餅づくり なんかとろとろになってきた」★ 2年保育7月

<これまでの姿>

毎月の誕生会では、クッキング当番の幼児がボランティアの地域の人と一緒におやつ作りをしている。今回は、人見知りの強いA児が当番である。

<エピソード>

恥ずかしそうに自己紹介を終えたA児に、おばあちゃんが計量カップを見せ、「線があるやろ、ここまで水入れて。」と声を掛けた。A児は黙ってうなずき、目盛を見ながら少しずつ水を入れおばあちゃんの方をちらちら見ている。おばあちゃんは、一緒に目盛を見て「もうちょっと。」と声を掛ける。A児は、おばあちゃんの言葉を聞き、また少しずつ水を足し、入れ終わると大きく息を吐いた。

すると、おばあちゃんが水に粉を入れ、鍋を火にかけ、「さあ、混ぜよか。」とA児に声を掛けた。A児は、おばあちゃんがするように黙ったまま混ぜ始めた。しばらくして、隣で混ぜていたB児が「暑くなってきた。おばあちゃん、いつまで混ぜたらええん？」と疲れた声で聞くと、「ほんまに暑いな。」と汗を拭きながら、「あんな、透明になったらええんや。ここみてみ、ちょっとになってきよるやろ。」と答えた。すると、自分の鍋をじっと見たままだったA児が、B児の鍋を覗き込み「ほんまや、透明になってきよる。」と驚いた声で言うと、前よりも力を入れて混ぜ始めた。

しばらくするとA児が「なんかとろとろになってきた。」と、大きな声でおばあちゃんに言う。「ほんまやなー。だいぶ透明になってきたから、あとちょっとや。ちょっと火を強くしよか。」と言いながら火を強めた。二人は汗をかきながらさらに混ぜ続ける。そして、ようやく「もう、ええ加減になったわ。後は冷やすからな。暑かったなあ。」とおばあちゃんが話すと、「暑い。」と笑顔で応えた。

黄色のマーカー線は、A児がどのような気持ちで行動しているかを読み取るキーワードになるため、幼児の表情や環境にどのようにかかわっているかなど、行動の様子を丁寧に記録する。

この他に、下記の視点で記入する。

- ・場の雰囲気
- ・2人以上の者が感じたこと
- ・教師の願いと願いから行った援助



② 記録を分析し、学びを可視化する

「感じる」「考える」「表す」の巡りの中で、経験していることを捉える。



③ 可視化した学びを、幼児期に育みたい資質・能力の三つの柱に分類する。(P5 イメージ図参照)

学び	資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> 根気よくやり遂げようとする。 わらび餅の粉を水に入れて火にかけて混ぜると、色や形、感触に変化が起こることに気付き、その不思議さに驚く。 先を予測して、混ぜることを楽しみながら取り組む。 嬉しい気持ちを素直に伝える。 おやつ作りを通して、地域の人に親しみの気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びに向かう力、人間性等 知識及び技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等

※ 三つの柱に分類する際、複数の柱に該当することがありますが、本手引きでは、重きをおいている柱に分類することとします。

④ さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目」に関連付ける。(P6イメージ図参照)

学び	資質・能力	10項目
<ul style="list-style-type: none"> 根気よくやり遂げようとする。 わらび餅の粉を水に入れて火にかけて混ぜると、色や形、感触に変化が起こることに気づき、その不思議さに驚く。 先を予測して、混ぜることを楽しみながら取り組む。 嬉しい気持ちを素直に伝える。 おやつ作りを通して、地域の人に親しみの気持ちをもつ。 	<p>学びに向かう力、人間性等 知識及び技能の基礎</p> <p>思考力・判断力・表現力等の基礎</p> <p>思考力・判断力・表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等</p>	<p>自立心 思考力の芽生え 豊かな感性と表現</p> <p>思考力の芽生え</p> <p>言葉による伝え合い 社会生活とのかかわり</p>

※ 幼児期の教育においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目」の一つを取り出して指導するものでないことから、10項目の欄には複数の項目が挙がることもあります。

※ 本手引きにおいては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目」に分類する際、他の項目と混同したり、具体的なイメージをもちにくかったりする項目については、下記の規準で分類しています。

<協同性>

一人ではできない共通の目標の共有や、その活動について新しいアイデアを生み出すような話し合いは「協同性」とし、それ以外の伝え合いは「言葉による伝え合い」とする。

<社会生活との関わり>

自分と家族、友達、教師、地域の人とのかかわり、地域の行事等への参加・施設等での体験等を通して自尊感情を高めたり、つながりを深めたりする等の姿とする。

<思考力の芽生え>

身近な事象（自然を含む）との関わりを通して、ものの性質や仕組みに気付いたり発見したりしようとする姿や、予想したり工夫したりするなど新しい考えを生み出そうとする姿とする。

<自然とのかかわり・生命尊重>

自然とは、幼児を取り巻く身近な生き物、季節の草花や野菜、木の実等の自然の素材、林や森、自然現象等とし、自然についての捉え方、考え方、感じ方に関する姿とする。

<豊かな感性と表現>

ここでいう感性とは、美しいものを見たり心動かすものに触れたりしたときに感じる気持ち、感じたことを表現する楽しさを感じたりする気持ちとする。自分に対する思い、人に対する思いなど感受性につながる思いなどは、「道徳性・規範意識の芽生え」とする。

⑤-1 実践記録から可視化した学びを分類表に転記し、月毎又は教育課程の期毎にまとめる。

分類表	
5領域	7月の実践記録から可視化した学び（月又は教育課程の期ごとにまとめた可視化した学び）
健康	<p>(A) 熱中症の予防のためには、こまめな水分補給が必要であることが分かり、自分からしようとする。</p> <p>(A) 暑い日も快適に過ごすために、汗をかい日は進んで着替えをする。</p> <p>(A) プール遊びで使う用具の扱い方が分かり、安全に扱おうとする。</p> <p>(A) 竹馬に興味をもち、挑戦しようとする。</p> <p>(A) 竹馬に乗れるようになったことで、新たな技に（目標を立てて）挑戦しようとする。</p> <p>(A) 育てた夏野菜を収穫し、友達と一緒に喜んで食べる。</p> <p>(B) 根気よく世話をし、収穫の喜びを味わう。</p> <p>(B) おやつ作りを通して、地域の人に親しみの気持ちをもつ。（わらび餅づくり）</p> <p>(B) 体んでいる友達の野菜の世話を進んでする。</p> <p>(F) わらび餅の粉を水に入れて以にかけて混ぜると、色や形、感触に変化が起こることに気づき、その不思議さに驚く。</p> <p>(FG) いろいろな野菜の苗を比べて、野菜の種類によって、苗の形や臭いが違うことに気づき、関心をもつ。</p> <p>(GH) 花やできた実を数えて、成長を喜びとともに収穫を楽しむにする。</p> <p>(G) 苗の世話の仕方を知り、進んで世話をする。（キュウリ・オクラ・ナスビ・ピーマン・スイカ）</p> <p>(G) 夏野菜の水やりを忘れると、葉や茎が萎れることに気づき、忘れずにしようとする。</p> <p>(G) 天候によって、プールの水温に変化があることに気付く。</p> <p>(F) 先を予測して、混ぜることを楽しみながらわらび餅づくりを楽しむ。（わらび餅づくり）</p> <p>(F) 大きくならない実から、その原因を考え、解決方法を試す。</p> <p>(F) 雨上がりにサワガニがたくさん出てくることに気づき、出てきそうな場所を予測して探す。</p> <p>(F) 釣糸の長さによって釣りやすさが変わることに気づき、釣りやすい長さを調節しながら確かめる。（魚釣りごっこ）</p> <p>(F) おばけ屋敷ごっこでは、お密さんが驚くようお化けの隠れ場所や声の大きさなど演出を工夫する。</p> <p>(F) イメージしたものが作れるよう、試したり工夫したりする。（魚釣りごっこ、七夕飾り）</p> <p>(H) 収穫した野菜の数を丸印で示して、収穫した総数を数え、収穫を喜ぶ。</p> <p>(H) スイカの重さを予想し、ものの重さに関心をもつ。</p> <p>(I) 嬉しい気持ち素直に伝える。</p> <p>(I) 相手の話をしっかり聞こうとする。</p> <p>(I) 気付いたり感じたりしたこと、言葉で伝え合ったり、絵や文字で表したりする。</p> <p>(AB) 竹馬に挑戦し、上手くない苛立ちと諦めたくない気持ちで葛藤しながらも諦めずに取り組み、</p> <p>(AB) 竹馬に乗れるようになり達成感を味わう。</p> <p>(AB) プール遊びで顔付けや伏し浮きができるようになり自信をもち、他のことにも挑戦しようとする。</p> <p>(B) 言われたことをきちんとやり遂げようとする。</p> <p>(C) 遊びの進め方について思ったことや感じたことを相手に伝え、相手の考えも受け入れて遊び方を決めようとする。</p> <p>(D) 休んでいる友達の夏野菜にも進んで水やりをする。</p> <p>(D) 未就園児に遊び方を分かりやすく話したり、力加減をしたりかわろうとしたりする。（未就園児との交流）</p> <p>(GI) 七夕の絵本を見たり、話を聞いたりして夜空や星に関心をもつ。</p>
人間関係	<p>知識及び技能の基礎</p>
言葉	<p>思考力・判断力・表現力等の基礎。</p> <p>記録から可視化した具体的な学びが多数挙がり、重複した内容が含まれるため、月又は教育課程の期毎に経験している内容が捉えにくい。</p>
表現	<p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>分類した学びを、経験した内容で整理し、具体的な活動内容（指導内容）を抽象化することで、ばらばらだった学びを整理する。</p>

(A)健康な心と体 (B) 自立心 (C) 協同性 (D) 道徳性・規範意識の芽生え (E) 社会生活のかかわり (F) 思考力の芽生え (G) 自然との関わり・生命尊重 (H)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (I)言葉による伝え合い (I) 豊かな感性と表現

◎-2 月又は教育課程の期毎にまとめた学びを整理する。

分類表

5領域	資質・能力	7月の実践記録から可視化した学びを整理した幼児の姿（月又は教育課程の期ごとに整理した幼児の姿）
健康	知識及び技能の基礎	<p>(A) 健康な生活に必要な生活の仕方や方法が分かり、進んで行う。(熱中症の予防、汗をかいいたら着替える)</p> <p>(A) 生活に必要な用具の扱い方が分かり、安全に扱おうとする。(プール用具)</p> <p>(A) 体を動かす遊びに興味を持ち、挑戦したり、できるようになったことで新たな目標をもってさらに挑戦したりする。</p> <p>(A) 育てた夏野菜を収穫し、友達と一緒に喜んで食べる。(キュウリ・オクラ・ナスビ・ピーマン・スイカ)</p> <p>(E) 地域のひとと一緒ににおやつづくりをし、親しみの気持ちをもつ。(わらび餅づくり)</p> <p>(E) 休んでいる友達の野菜の世話を進んでする。</p> <p>(F) 加熱による物の変化に気付き、その不思議さに驚く。(わらび餅づくり)</p> <p>(FG) いろいろな野菜の苗を比べて、野菜の種類によって、苗の形や臭いが違うことに気付き、関心をもつ。</p> <p>(GH) 花やできた実を数えて、成長を喜ぶとともに収穫を楽しみにする。</p> <p>(GB) 苗の世話の仕方を知り、根気よく世話をして収穫を喜ぶ。(キュウリ・オクラ・ナスビ・ピーマン・スイカ)</p> <p>(G) 同じものでも、事象の変化によって違いが生じることに気付き。(プールの水、日向日陰の温度差、雨上がりに出てくるサワガニなど)</p> <p>(F) 経験したことをもとに、結果を予測して試したり考えたりして、新たな方法に気付く。(わらび餅づくり、野菜の世話、サワガニ探し)</p> <p>(F) 遊びが楽しくなるよう、遊び場や進め方、道具の使い方など試したり工夫したりして遊びを進める。(おぼけごっこ、魚釣りごっこ)</p> <p>(F) イメージしたものが作れるよう、材料や作り方を試したり工夫したりする。(魚釣りごっこ、七夕飾り)</p> <p>(H) 収穫した野菜の数を丸印で示して、収穫した総数を数え、収穫を喜ぶ。</p> <p>(H) ものの重さを予想し、もの重さに関心をもつ。</p> <p>(I) 嬉しい気持ちを素直に伝える。</p> <p>(I) 相手の話をしっかり聞こうとする。</p> <p>(I) 気付いたり感じたりしたことを、言葉で伝え合ったり、絵や文字で表したりする。</p> <p>(AB) 体を動かさず遊びに挑戦し、上手くいかない苛立ちと諦めたくない気持ちとで葛藤しながらも諦めずに取り組む。</p> <p>(AB) 体を動かさず遊びに挑戦し、できるようにになった達成感を味わうとともに、そのことが自信となって他のことにも挑戦しようとする。(竹馬、プールでの顔付け、伏し浮き)</p> <p>(B) 言われたことをやり遂げようとする。</p> <p>(C) 遊びの進め方について思ったことや感じたことを相手に伝え、相手の考えも受け入れて遊び方を決めようとする。(おぼけごっこ、魚釣りごっこ)</p> <p>(D) 相手のことを思いやり、分かりやすく話したり、やさしくかかわろうとしたりする。(未就園児との交流)</p> <p>(G) 七夕の絵本を見たり、話を聞いたりして夜空や星に関心をもつ。</p>
人間関係	思考力・判断力等の基礎	
言葉	学びに向かう力、人間性等	
表現		

(A)健康な心と体 (B) 自立心 (C) 協同性 (D) 道徳性・規範意識の芽生え (E) 社会生活とのかかわり (F) 思考力の芽生え (G) 自然との関わり・生命尊重 (H)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (I)言葉による伝え合い (I) 豊かな感性と表現



◎ ◎-2の分類表を1年間集積し、整理することで『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を明らかにする。

4 実践事例

事例1

★やったー！やったー！★ 2年保育5歳児6月



<これまでの姿>

クラスみんなで「海賊船」を作っていたが、帆をなかなか立てることができずに困っていた。そこで、自分たちの力で解決できる手段になればと思い、「小学生に聞きに行ってみる？」と声を掛けたところ、「行く行く！」とやる気をみせたので、小学生に聞きに行く代表者を決め、「どうやって聞けばいいか」について話し合い、明日に備えた。

<エピソード>

代表3人が、5年生のクラスに行き、実物の帆を見せながら「船に、この帆を立てたいんやけど、どうやって立てたらいいですか？」と丁寧な言葉で尋ねた。小学生が写真立てのように突っ張りをして、立たす方法を説明してくれる間、3人は真剣な表情で説明を黙って聴いていた。

クラスに帰ってきた3人は、すぐに説明を始めた。「写真立てみたいにしたらいいって言った。」とB児が伝えるが、クラスの子どもたちからは反応がなかったので、「写真立てってどんな形？」と教師が聞いてみると、「こうやって、ここにもう一つ棒がいるねん。」とB児が説明した。「みんな分かる？」ともう一度教師が聞くと、やっと笑顔が浮かび、「できる！やってみよう！」とグループの子どもたちが集まって取りかかった。

帆の中心に貼り付けた紙筒と同じ長さの紙筒を持って来て、ガムテープで張りつけ、角度をつけて立てようとするが立たない。「立たへんな。」と気持ちが盛り下がったところに、A児が「ナイロンの上から貼っても意味ないやん。意味ないところに貼ったらあかんやん。」と気づき、ナイロンと紙筒に貼れるよう、使用場所に応じてガムテープの長さや太さを使い分けて貼り直す。

やっと貼り終えた帆を立ててみるが、またも倒れてしまう。それを見たE児は、支えになるように貼った紙筒を、段ボールカッターで切ろうとした。その時A児が大きな声で「切ったらあかん！」と叫んだ。「なんで？長さそろえたらいいやん。」とE児がやんわり言い返すと、「ガムテープ、貼りすぎやねん。」とA児が落ち着いて説明を始めた。

帆を立てるには、支えになる紙筒に角度を保たせることが必要と気づき、今度は角度を試しながらガムテープを貼り合わせて固定し、帆を立てて、そっと手を離してみた。「立ったあ！！」大声で喜び飛び跳ねたが、直後に帆が倒れた。みんなは、大きくため息をつき黙ってしまったが、A児が「紙筒がやっぱり長いんや。」とつぶやくと、やっぱりという顔でE児が紙筒を切ろうとした。するとA児がすかさず「どこでもいいから切るのはあかんで。」と声を掛け、二人で相談して切る場所を決め、線を引いてから切った。そして、再度、角度を確認して、そっと手を離し立ててみると、今度はしっかりと立った。

★記録の省察★

学び	資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目
<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を自覚し、聴いてきた話を相手に分かるように伝えようとする。 	学びに向かう力、人間性等	自立心
<ul style="list-style-type: none"> 帆が立たない原因を考え、その解決に向かって試したり工夫したりする。 	思考力・判断力・表現力等の基礎	思考力の芽生え
<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、素材を工夫して使う。 	思考力・判断力・表現力等の基礎	思考力の芽生え
<ul style="list-style-type: none"> 何度も倒れうまくいかないことに苛立ちながらも、気持ちを切り替え再度取り組もうとする。 	学びに向かう力、人間性等	自立心
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと違う友達の考えにも耳を傾け、いろいろな方法を試す。 	学びに向かう力、人間性等	協同性
<ul style="list-style-type: none"> 失敗から今のやり方を振り返り、新たな方法を考える。 	思考力・判断力・表現力等の基礎	思考力の芽生え
<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にやり遂げた達成感を味わう。 	学びに向かう力、人間性等	協同性

事例2

★バッタになったら跳び箱とべた★

2年保育5歳児7月

<これまでの姿>

クラスで作った虫広場の中で、ロイター板を使ってバッタのジャンプを繰り返し遊んでいたある日、「跳び箱も出して。」という声があがったので、その日の午後、跳び箱を用意した。

<エピソード>

A児は、他の子ども達が跳び箱をしているホールに入るが、参加せず遠巻きに見ている。時々教師とも視線が合う。興味はあるが跳べないかもしれないと不安に思っているのかと思い、「跳び箱しないの？」と教師が聞くと、「うん。」とだけ小さな声で返事をするが、それ以上教師とは話をしたくなさそう。跳ばずに見ている理由を教師に知られたくないのであろう。自分で挑戦しようと決めたら根気よく取り組むA児なので、他の子どもの跳び箱の補助をしながら様子を見守った。

A児は、跳び箱の列に並びはしないが、ホールから出て行くこともない。他の遊びをしながら、跳び箱の様子を見ている。跳びたい気持ちと不安な気持ちで揺れ動いているのだろう。これまでは具体的な声掛けや励ましがあまりなくても地道に取り組むことができたA児だったが、さすがに初めての跳び箱に対しては、ジャンプ、手のつき方、着地等、不安は大きいのであろうと考え、「A君のこれまでのバッタジャンプで大丈夫。あとは先生が横にいるから、バッタになって跳び箱してごらん。」と声を掛けてみた。すると、A児の表情がぱっと変わり、跳び箱の列に並んだ。バッタジャンプという声掛けが、自分の不安を乗り越えるきっかけになったと感じ、跳ぶ直前に「バッタジャンプだよ。」と、再び声掛けをしてイメージできるようにした。これまでのロイター板ジャンプ同様、勢いよく助走をつけてくる姿は挑戦意欲にあふれていた。跳ぶ瞬間に手を添えたが、しっかり自分で跳ぶことができる感触があった。着地も見事にできた。教師は、A児が跳べたことを喜びとともに、自信をもってほしいという気持ちで、「ほら、ぱっちりだね。A君すごいよ。」と、伝えた。A児は、「うん。」と、興奮した様子で頷いた。跳んだ後はすぐに走って列に並び、何度も繰り返して跳んでいた。

★記録の省察★

学び	資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目
・やりたい気持ちと不安な気持ちで葛藤しながらも、自分から挑戦しようとする。	学びに向かう力、人間性等	自立心
・これまでの自分の経験から、跳び方を考え自分なりの方法で飛ぶ。	知識及び技能の基礎	健康な心と体
・跳び箱を跳ぶ感覚をつかむ。	知識及び技能の基礎	健康な心と体
・挑戦したことができた喜びを味わう。	学びに向かう力、人間性等	自立心

事例3

★「ほら、壊れないよ」★

2年保育5歳児10月

A児とB児が、大きな板段ボールに穴を開け、そこに小さい段ボールを付けてトンネルにしようとしているが、段ボールが折れて柔らかくなっているため、すぐに倒れてしまう。B児が「これ、すぐ倒れちゃう。なかなか立てへんで、難しいわ。」と少し諦めがちな口調で言い出す。A児は黙ったまま見ている。柔らかい段ボールでは立たせることはできないので、教師がしっかりした新しい段ボールを持って来ると、「これだったら倒れないな。」と、B児がすぐ取り付けようとするが、その様子を見ていたA児は「これはトンネルの形(切り抜いた穴の部分)と合わない。」と不満そうにつぶやいた。A児のつぶやきから、アーチ状のトンネルにしたいと思っていることが分かったので、柔らかくなった段ボールの方が扱いやすいと思い、新しい段ボールを片付け、様子を見守ることにする。

二人は「上の方からくっつける?」「僕は横を貼るわ。」と役割分担し、何とか穴に合うように段ボールを貼り付ける。A児が「できた!通ってみよう。」と、急いでトンネルの中に入って行ったが、段ボールのサイズが穴と合っていなかったため床が浮いてしまい、入った瞬間に下に引っ張られてガムテープが外れてしまう。A児は「壊れた…」と残念そうに言うが、すぐに気を取り直して「次は下から貼ってみる?」と今度は二人で床側から合わせてやり直す。しばらくしてB児が「A君、上の方が届かないよ。」と隙間ができたことを伝える。A児は「あー、どっから貼ったらいいんだろ?」と言いながらも、B児と一緒に何度も貼り直す。失敗する度に「あー…」と表情をくもらせるが、諦める様子はない。教師は何とか思いを実現させたいと思い、「床のところもこの段ボールがあった方がいいの?」と声を掛けてみる。A児はハッとひらめいたような表情を見せ、「そうか!切ったらいいかも!B君、ここ切ってみよう。」と2人で底の部分を持ち落とし始める。切り取ると、うまくトンネルの形に段ボールを貼り付けることができ、A児とB児が順番にくぐりながら「ほら、壊れないよ。」「できたなあ!」と笑顔で確認し合っている。教師も「うまくくっついたね、頑張ったね。」と一緒に喜ぶ。



★記録の省察★

学び	資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目
<ul style="list-style-type: none"> 穴の形と段ボールの形を合わせて貼るにはどうすればよいか、いろいろ試してみる。 友達と力を合わせ、根気よく取り組む。 友達と思いを伝え合い、協力して取り組む。 教師の言葉から、発想を広げる。 友達と一緒にやり遂げた喜びを味わう。 	<p>思考力・判断力・表現力等の基礎</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>思考力・判断力・表現力等の基礎</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>思考力の芽生え</p> <p>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>自立心</p> <p>協同性</p> <p>思考力の芽生え</p> <p>協同性</p>

事例4

★野菜を育てよう★

2年保育5歳児5月～8月

<幼児の姿>

クラスには、野菜嫌いの幼児が数名いる。お弁当に苦手な野菜が入っていると、食べることができず、残してしまうことも多い。また、一口食べることに時間もかかってしまう。そこで、野菜の成長の様子や変化に気づき、食への関心が高まるように、クラスで野菜を育てることにした。

【ねらい】夏野菜の成長に関心をもつ。

【内容】夏野菜の苗を植え、成長や収穫を楽しみに世話や観察をする。

- ① どの夏野菜を育てたいか、クラスで相談し、自分が責任をもって育てる野菜を決める。

「ピーマン好きやから、ピーマン育てたい！」
「ええな、僕もピーマン好きや。」
「ナスビは？」
「焼いたらおいしいな。」
「私、嫌い。」
「嫌いでも、頑張って食べなあかんやん。」

…と、話し合いながら
キュウリ、ナスビ、オクラ、ピーマン、スイカ に決定！！

- ② 野菜の苗を植える。

<気付いたこと>

- ・葉っぱの形や野菜によって触った感触が違う。
- ・野菜のにおいがする。
- ・茎の色が違う。 …など



- ③ 水やりなどの世話をする。友達が水やりを忘れていた時は、友達に声を掛けたり、友達が休んでいる時は、友達の分も水やりをしたりする。また、苗の成長等、気付いたことを伝え合う。

みて、みて。



「ピーマン、ちっちゃいのがなっとる！」
「ほんまや、かわいい。」
「ここにもなっとるで。」
「ちっちゃい花も咲いてるよ。」
「かわいいなあ。」
「何個なっとるか数えてみよ。」
「1、2、3、4…4個なっとるで。こっちも数えてみよ。」
「1、2、3…3個や。」
「はよ、食べたいな。」

④ 食べ頃になった野菜を収穫し、友達と気付いたことを伝え合う。



「ナスビの茎は固いから、はさみで切ろう。」
 「ちょっと固い。」
 「やったあ、とれた！」
 「ナスビのいい匂いがする。」
 「葉っぱが虫に食べられてる。」

<気付いたこと>

ナスビにひびが入って実らなくなった。
 理由を話し合い、虫が葉や実を食べて病気に
 にかかったからと考えた。

夏野菜の収穫ができるようになった頃に、スイカの実がなり始めたよ。



⑤ 収穫した野菜を喜んで食べる。また、野菜嫌いの幼児も食べてみようという気持ちを膨らませ、一口ずつだが食べる事ができた。野菜について気付いたことを話し合う。



<気付いたこと>

<ピーマン>

- 葉がたくさんある。
- 種は食べられない。
- ピーマンの上の部分が丸くなっていて花の形みたい。
- 小さい白い種がたくさんある。
- ちょっと苦手だけど、味がついて美味しかった。

<ナスビ>

- つるつるしている。
- 育つのが早かった。
- ナスビのへたが前髪みたい。

<キュウリ>

- はっぱがかさみたい。
- ちくちくしている。

<オクラ>

- 緑の皮がちくちくしている。
- 白くて丸い種があった。
- よく見たら白くて細いひげみたいなものがある。
- ねばねばしている。



野菜を収穫するたびにシールを貼ることで、収穫した野菜の数が把握しやすく、数に興味をもつきっかけになっている。

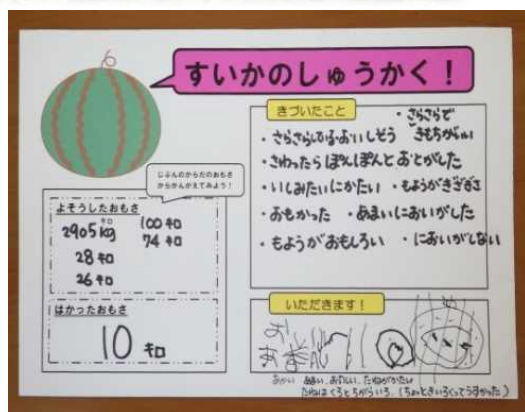
ようやく大きくなったスイカを収穫だ!!



「このスイカ、大きい!!!」
 「こっちのスイカは、ちょっと小さいで。」
 「スイカの“つる”が固くて、はさみでもなかなか切れへん。」
 「うわっ、重い。」
 「手押し車で運ぼうよ。」
 「それええな、そうしよか。」



何キロか計ってみよう!!



★記録の省察★

学び	資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな野菜の苗を比べて、野菜の種類によって、苗の形や臭いが違うことに気付く。 苗の世話の仕方を知り、進んで世話をする。 休んでいる友達の苗の世話を進んでする。 花やできた実を数えて、成長を喜ぶ。 大きくなならない実から、その原因を考える。 野菜の特徴に気付き、関心をもつ。 気付いたり感じたりしたことを、言葉で伝え合ったり、絵や文字で表したりする。 収穫した野菜の数を丸印で示して、収穫した総数を数える。 スイカの重さを予想し、ものの重さに関心をもつ。 収穫した野菜を調理し、友達と一緒に食べることを楽しむ。 根気よく世話をし、収穫の喜びを味わう。 	<p>知識及び技能の基礎</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>思考力・判断力・表現力等の基礎</p> <p>知識及び技能の基礎</p> <p>思考力・判断力・表現力等の基礎</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重 自立心</p> <p>社会生活とのかかわり</p> <p>自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>健康な心と体</p> <p>自立心</p>

※ 学びの可視化は、エピソードの記録の分析を基本とします。事例4では、野菜の栽培・収穫という長期にわたる活動としてまとめていますが、これも日々の記録から捉えた学びをつなげてまとめたものです。

5 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像

(1) 資質・能力の三つの柱による分類

幼児期の教育（遊びを通した総合的な指導）	
5領域	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像
健康	<p>(A) 進んで戸外で遊び、いろいろな遊びの中で体の諸部位を動かし、楽しんで取り組む。</p> <p>(A) 様々な機会を通して、食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、進んで食べたりするようになる。</p> <p>(A) 自分の健康に関心をもち、身体を大切にする活動を進んで行い、健康な生活のリズムを身に付ける。</p> <p>(A) 基本的な生活に必要な活動の仕方が分かり、自分でできるよう考えたり試したりしながら、意欲的に行動するようになる。</p>
人間関係	<p>(A) 園での生活の流れや仕方が分かり、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</p> <p>(A) 危険な場所、危険な遊び方、災害時等の行動の仕方が分かり、状況に応じて安全に行動する。</p> <p>(A) 遊具や用具の安全な使い方や扱い方が分かり、安全を意識し、目的に応じて使う。</p> <p>(B) 自分の役割を自覚し、責任をもって果たそうとする。</p> <p>(B) 自分でできることは自分でし、できないことは実現できるよう工夫したり、先生や友達の助けを借りたりして最後までやり遂げようとする。</p>
環境	<p>(D) 共同の遊具や用具の使い方が分かり、みんなで大事に扱うようになる。</p> <p>(D) 友達とのかかわりを深め、思いやりの気持ちをもって行動するようになる。</p> <p>(D) よいことや悪いことがあることが分かり、自分で考えて行動するようになる。</p> <p>(E) 様々な機会を通して、地域のいろいろな人と触れ合い、親しみの気持ちをもつ。</p> <p>(E) 様々な地域の行事に参加し、自分たちが住む地域のよさに気付き、地域に親しみをもつ。</p> <p>(E) 生活を振り返り、家族や身近な人に感謝の気持ちをもったり、大切に思う気持ちをもったりするようになる。</p>
言葉	<p>(E) 生活に関係の深い施設を訪問したり、利用したりする中で、そこで働く人や仕事に関心をもち、大切に使用しようとするようになる。</p> <p>(E) 生活や遊びに関係の深い情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づいて判断したりする。</p> <p>(F) ものとの多様なかかわりの中で、その性質や仕組みに気付き、考えて使うようになる。</p> <p>(G) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどを感じ、興味や関心をもってかかわる。</p>
表現	<p>(G) 同じものでも、季節や事象の変化によって変化することが分かり、変化に応じて生活や遊びを変える。</p> <p>(H) 生活や遊びの中で文字や標識、数字のもつ役割に気付き、生活や遊びに取り入れて使うことを楽しむ。</p> <p>(I) 様々な体験を通して、生活に必要な言葉が分かり、場に応じて使う。</p> <p>(J) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。</p>

(A) 健康な心と体 (B) 自立心 (C) 協同性 (D) 道徳性・規範意識の芽生え (E) 社会生活との関わり
 (F) 思考力の芽生え (G) 自然との関わり・生命尊重 (H) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 (I) 言葉による伝え合い (J) 豊かな感性と表現

小学校教育（各教科における指導）	
第1学年及び第2学年における教科目標等	
<p>（国語）日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p> <p>（算数）数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>（生活）学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気づき、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。</p> <p>（音楽）曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</p> <p>〔 図画 工作 〕 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。</p> <p>（体育）各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。</p> <p>（道徳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。 ・うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。 ・健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 ・自分の特徴に気づくこと。 ・自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。 ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 ・家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。 ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。 <p>〔 特別 活動 〕 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p>	知識及び技能

<p>(国語) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。</p> <p>(算数) ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力を養う。</p> <p>(生活) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。</p> <p>(音楽) 音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(図画) 作品などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく (工作) 発想や構想をしたり、身の回りの作品などから、作品などに対する自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。</p> <p>(体育) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(特別) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成 (活動) を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p>	<p>思考力・判断力・表現力等</p>
<p>(国語) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p> <p>(算数) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。</p> <p>(生活) 自分自身を見つけることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようにする。</p> <p>(音楽) 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度を養う。</p> <p>(図画) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに (工作) に、形や色などに関わり楽しい生活を創造する態度を養う。</p> <p>(体育) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動する態度を養う。</p> <p>(道徳) ・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。 ・友達と仲よくし、助け合うこと。 ・自分の好き嫌いとらわれないで接すること。 ・働くことよさを知り、みんなのために働くこと。 ・父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。 ・先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。 ・我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。 ・他国の人々や文化に親しむこと。 ・生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。 ・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。 ・美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p> <p>(特別) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	<p>学びに向かう力・人間性等</p>

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目による分類

10項目	『『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像』
健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> • 進んで戸外で遊び、いろいろな遊びの中で体の諸部位を動かし、楽しんで取り組む。 • 様々な機会を通して、食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、進んで食べたりするようになる。 • 自分の健康に関心をもち、身体を大切に活動を進んでいき、健康な生活のリズムを身に付ける。 • 基本的な生活に必要な活動の仕方が分かり、自分でできるよう考えたり試したりしながら、意欲的に行動できるようになる。 • 園での生活の流れや仕方が分かり、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 • 危険な場所、危険な遊び方、災害時等の行動の仕方が分かり、状況に応じて安全に行動する。 • 遊具や用具の安全な使い方や扱い方が分かり、安全を意識し、目的に応じて使う。 • 体を動かす活動に取り組む、やり方を試したり工夫したりする。 • 体を動かす活動に目標をもち、根気よくやり抜くことで達成感を味わう。 • 先生や友達と触れ合いながら様々な活動に親しみ、安定感をもって生活する。
自立心	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の役割を自覚し、責任をもって果たそうとする。 • 自分でできることは自分でし、できないことは実現できるよう工夫したり、先生や友達の助けを借りたりして最後までやり遂げようとする。 • 先生や友達に認められたり、友達と支え合ったりする経験を通して、自分のよさに気づき、自信をもって行動するようになる。 • 生活や遊びを進める中で、難しいことにも根気よく取り組み満足感や達成感を味わう。
協同性	<ul style="list-style-type: none"> • 友達とかかわりながら喜びや悲しみに共感し合い、共に過ごす楽しさを味わう。 • 友達とのかかわりを通して互いの感じ方や考え方、よさが分かり、友達と一緒に楽しみながら活動を進めるようになる。 • 友達同士で思いや考えを伝え合う中で、伝え方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら分かり合えるようになる。 • 友達と遊びの目的を共有し、目的が達成できるよう相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、友達と一緒に生活や遊びをつくり上げる楽しさや充実感を味わう。
道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> • 共同の遊具や用具の使い方が分かり、みんなで大事に扱うようになる。 • 友達とのかかわりを深め、思いやりの気持ちをもって行動するようになる。 • よいことや悪いことがあることが分かり、自分で考えて行動するようになる。 • 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ったり、新たにつくったり、必要に応じて作り替えたりする。 • 自分の気持ちを調整しながら友達と折り合いを付け、約束を守って遊ぼうとする。
社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な機会を通して、地域のいろいろな人と触れ合い、親しみの気持ちをもつ。 • 様々な地域の行事に参加し、自分たちが住む地域のよさに気づき、地域に親しみをもつ。 • 生活に関係の深い施設を訪問したり、利用したりする中で、そこで働く人や仕事に関心をもち、大切にしようとするようになる。

<p>社会生活との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに関係の深い情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づいて判断したりする。 生活を振り返り、家族や身近な人に感謝の気持ちをもったり、大切に思う気持ちをもったりするようになる。 園内外の行事において国旗に親しむ。 いろいろな人と触れ合い、自分が大切にされていることや自分が人の役に立っていることに気付き、喜びを感じる。
<p>思考力の芽生え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ものとの多様なかかわりの中で、その性質や仕組みに気付き、考えて使うようになる。 これまでの経験から、結果を予想したり、新たな方法を考えたりして、身近な環境へのかかわりを深める。 身近なものや用具の特性を生かしたり、使い方を工夫したりしながら、目的に応じて使いこなすようになる。 身近な環境にかかわる中で、不思議に思ったことなどを探究するようになる。 先生や友達の考えを聞いたり取り組む様子を見たりして、自分の考えを考え直したり、新しい考えを生み出したりする。
<p>自然との関わり・ 生命尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さを試したりして、身近な事象に関心をもつようになる。 同じものでも、季節や事象の変化によって変化することが分かり、変化に応じて生活や遊びを変える。 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどを感じ、興味や関心をもってかかわる。 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわりや大切に思う気持ちをもつ。
<p>数量や図形、標識や 文字などへの関 心・感覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で文字や標識、数字のもつ役割に気付き、生活や遊びに取り入れて使うことを楽しむ。 様々な機会を通して数量、長短、高低、広さや速さ、図形などに親しみ、必要感から数えたり比べたりするなど生活や遊びに取り入れる。
<p>言葉による伝え合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験を通して、生活に必要な言葉が分かり、場に応じて使う。 先生や友達の言葉に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり話したりする。 したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりしたことを自分なりの方法で表現する。 日常生活の中で文字などで伝えることを楽しむ。 絵本や物語に親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを通して、言葉で表現することを楽しむ。 言葉を通して先生や友達と心を通わせるようになる。
<p>豊かな感性と表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。 感じたり考えたりしたことを様々な方法で表現することを楽しみ、創造的な活動（制作や表現、演奏、劇遊び等）を生み出していくようになる。 友達と一緒に表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わったりして、表現意欲が高まるようになる。

研究のまとめ

1 幼児期の学びを分類することで

本研究では、実践協力園 4 園の 5 歳児の実践記録から可視化した学びを整理し、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を、二つの視点からまとめました。(P20~P25に掲載)

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」
資質・能力の三つの柱による

幼児期の教育		スタートカリキュラム	小学校教育
三つの柱	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像		教科目標等
知識及び技能の基礎			国語 …… 算数 …… 生活 …… 音楽 …… 図画工作 …… 体育 …… 道徳 …… 特別活動 ……
思考力・判断力・表現力等の基礎			国語 …… 算数 …… 生活 …… 音楽 …… 図画工作 …… 体育 …… 道徳 …… 特別活動 ……
学びに向かう力・人間性等		国語 …… 算数 …… 生活 …… 音楽 …… 図画工作 …… 体育 …… 道徳 …… 特別活動 ……	

資質・能力の三つの柱を視点に、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を分類し、左記の表のように小学校教育の 1 学年及び 2 学年における教科目標等を併記することで、両者のつながりがイメージしやすくなったのではないかと思います。

幼児期の教育は、幼児が身の回りの環境に主体的にかかわり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、発達に必要な多様な体験を重ねていきます。幼児はその体験から何かを学び、そして新たな興味や関心をもち、さらに試行錯誤したり考えたりして体験を深めていきます。

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」からは、このような幼児の学びのプロセスも読み取ることができ、小学校入学

時の子どもたちの資質・能力がどのように育まれてきたか見通すことにつながると思います。

また、幼児期の教育からも、幼児期の終わりまでに育まれた資質・能力が小学校 1 年生の教科や生活にどのようにつながっていくのか見通すことができ、接続期の教育の充実・改善にいかせるのではないかと思います。

今回、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」と小学校教育の教科目標等を併記することで、改めてこの間には、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」をつなぐ接続期の教育課程（スタートカリキュラム）、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を意識した接続期の教育課程（アプローチカリキュラム）の必要性を感じました。

接続期の教育課程には、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を明確にもつことが必要です。平成 30 年度より全面実施の幼稚園教育要領では、このことを踏まえ、子どもの育ちを共有できる観点として、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10 項目』が示されました。

本研究では、資質・能力の三つの柱とは別に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10 項目」を視点に『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を分類し、項目ごとにまとめることで、幼児期の終わりまでにどのような力が育っているのか、これまで以上に細かく捉えることができたのではないかと思います。

アプローチカリキュラム作成時には、10項目に分類した『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を指標に、これまでの幼児の育ちを確認することで、接続期に、どのような力をどのように育てていくかという指導内容や指導方法を明確にすることができ、接続期における教育課程の充実・改善につながると思います。

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像は、アプローチカリキュラムを基に実践した記録からさらに検証を重ねていくことで、その質を高めていくことができると思います。

2 アプローチカリキュラム作成に向けて

今年度取りまとめた『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像は4園の実践協力園から集めたデータを基に導き出した姿ですが、経験している内容で整理し、抽象化したことで、各幼稚園等においても共有できるのではないかと考えます。ただし、各幼稚園等においては、この具体像を指標に、接続期にこれまでの育ちを確認し、指導の内容や指導方法を明確にしたアプローチカリキュラムを作成し、実践する中で幼児の学びを可視化し、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像を検証することで、自園の具体像を明確にしていくことが大切であると思います。（指導内容や指導方法を具体化していく例を次のページに示しています。）

日々の記録を分析し、分類していくことはとても時間がかかる大変な作業ですが、科学的に学びを捉えることは、今、幼児教育に求められていることでもあります。そして、教師にとっても、自分がやっている教育とは何かを知る手掛かりになるだけでなく、自分の保育観や指導を振り返る機会にもなります。まずは記録をとる、記録を分析する、可視化した学びを分類するというプロセスに挑戦してほしいと思います。

接続期の教育は、これまで幼児期の教育が実践してきたことと変わりはありませんが、教師がこれまでの学びのプロセスを整理し、どのような学び方をしているのか捉えることが大切です。5歳児後半になると、環境に主体的にかかわる中で、遊びの目的や課題をもち、その課題解決に向けて試行錯誤したり、友達と相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、遊びを進めていくことが多くなります。そして、その中で様々なことを学んでいます。その学びが、また次の体験とつながっていきます。接続期の教育は、このような学びのプロセスを意識し、指導計画に取り入れていくことではないかと思っています。

接続期にアプローチする具体的な姿

以下には、本研究で明らかにした『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像をもとに、教育活動の場面に照らし合わせたより具体的な姿の例を示しています。アプローチカリキュラム作成の参考にいただき、実践を通して可視化した学びをもとに、具体像を検証してください。

幼児期の教育（遊びを通した総合的な指導）		例
5領域	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像	具体的な活動内容 具体的な経験
健康	(A) 進んで戸外で遊び、いろいろな遊びの中で体の諸部位を動かし、楽しんで取り組む。	ボール遊び、竹馬、縄跳び、鉄棒、鬼ごっこ、しっぽとりなどの遊びを通して、遊びに応じた身体を動かすコツをつかみ、意識してその部位を動かして遊ぶ。
	(A) 様々な機会を通して、食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、進んで食べたりするようになる。	野菜の栽培活動を行い、夏野菜、冬野菜の収穫、調理を通して食べ物に関心をもち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、苦味野菜も進んで食べたりするようになる。
	(A) 自分の健康に関心をもち、身体を大切にしている活動を進んで行い、健康な生活のリズムを身に付ける。	園での生活の流れが分かり、生活の中で、時計を見ながら活動したり、お休み調べなど自分たちでできることは、自分たちで準備をしたりして、活動を進めたりする。
人間関係	(A) 基本的な生活に必要な活動の仕方が分かり、自分で行えるよう考えたり試したりしながら、意欲的に行動できるようになる。	
	(A) 園での生活の流れや仕方が分かり、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。	
	(A) 危険な場所、危険な遊び方、災害時等の行動の仕方が分かり、状況に応じて安全に行動する。	
環境	(A) 遊具や用具の安全な使い方や扱い方が分かり、安全を意識し、目的に応じて使う。	
	(B) 自分の役割を自覚し、責任をもって果たそうとする。	
	(B) 自分で行えることは自分でし、できないことは実現できるよう工夫したり、先生や友達の助けを借りたりして最後までやり遂げようとする。	
言葉	(D) 共同の遊具や用具の使い方が分かり、みんなで大事に扱うようになる。	
	(D) 友達とのかかわりを深め、思いやりの気持ちをもって行動するようになる。	
	(D) よいことや悪いことがあることが分かり、自分で考えて行動するようになる。	
表現	(E) 様々な機会を通して、地域のいろいろな人と触れ合い、親しみの気持ちをもつ。	地域の祭りに参加し、その時の話を伝え合う中で、地域によって神輿の掛け声に違いがあることに気づき、自分の地域を意識するようになる。
	(E) 様々な地域の行事に参加し、自分たちが住む地域のよさに気づき、地域に親しみをもち、	
	(E) 生活を振り返り、家族や身近な人に感謝の気持ちをもったり、大切に思う気持ちをもったりするようになる。	泥団子づくりを通して、土の種類や水の混ぜ具合でできあがりに違いがあることに気づき、土の種類や水の量を考えて泥団子を作る。
	(E) 生活や遊びに関係の深い情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づいて判断したりする。	
	(F) ものとの多様ななかかわりの中で、その性質や仕組みに気づき、考えて使うようになる。	
	(G) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどを感じ、興味や関心をもち、かかわる。	
	(G) 同じものでも、季節や事象の変化によって変化することが分かり、変化に応じて生活や遊びを変える。	
	(H) 生活や遊びの中で文字や標識、数字のもつ役割に気づき、生活や遊びに取り入れて使うことを楽しむ。	部屋の中やごっこ遊びの場に「いりぐち」「でぐち」等といった標識があると遊びやすいことに気づき、文字を使って標識を作り、使って遊ぶことを楽しむ。
	(I) 様々な体験を通して、生活に必要な言葉が分かり、場に応じて使う。	
	(J) 生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。	

幼児期の教育（遊びを通した総合的な指導）	
5領域	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像
健康	<p>思考力・判断力・表現力等の基礎</p> <p>(A) 体を動かす活動に取り組み、やり方を試したり工夫したりする。 (D) 友だちと楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ったり、新たに作ったり、必要に応じて作り替えたりする。 (F) これまでの経験から、結果を予想したり、新たな方法を考えたりして、身近な環境へのかかわりを深める。 (F) 身近なものや用具の特性を生かしたり、使い方を工夫したりしながら、目的に応じて使いこなすようになる。 (F) 身近な環境にかかわる中で、不思議に思ったことなどを探究するようになる。 (F) 先生や友達の考えを聞いたり取り組む様子を見たりして、自分の考えを考え直したり、新しい考えを生み出したりする。 (G) 自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さを試したりして、身近な事象に関心をもつようになる。 (H) 様々な機会を通して数量、長短、高低、広さや速さ、図形などに親しみ、必要感から数えたり比べたりするなど生活や遊びに取り入れる。 (I) 先生や友達の言葉に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり話したりする。 (I) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりしたことを自分なりの方法で表現する。 (I) 日常生活の中で文字などで伝えることを楽しむ。 (J) 感じたり考えたりしたことを様々な方法で表現することを楽しみ、創造的な活動（制作や表現、演奏、劇遊び等）を生み出していくようになる。</p>
人間関係	
環境	<p>学びに向かう力・人間性等</p> <p>(A) 先生や友達と触れ合いながら様々な活動に親しみ、安定感をもって生活する。 (A) 体を動かす活動に目標を持ち、根気よくやり抜くことで達成感を味わう。 (B) 先生や友達に認められたり、友達と支え合ったりする経験を通して、自分のよさに気付き、自信をもって行動するようになる。 (B) 生活や遊びを進める中で、難しいことにも根気よく取り組み満足感や達成感を味わう。 (C) 友達とかかわりながら喜びや悲しみに共感し合い、共に過ごす楽しさを味わう。 (C) 友達とのかかわりを通して互いの感じ方や考え方、よさが分かり、友達と一緒に楽しみながら活動を進めるようになる。 (C) 友達同士で思いや考えを伝え合う中で、伝え方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら分かり合えるようになる。 (C) 友達と遊びの目的を共有し、目的が達成できるよう相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、友達と一緒に生活や遊びを作りあげる楽しさや充実感を味わう。 (D) 自分の気持ちを調整しながら友達と折り合いを付け、約束を守って遊ぼうとする。 (E) 園内外の行事において国旗に親しむ。 (E) いろいろな人と触れ合い、自分が大切にされていることや自分が人の役に立っていることに気付き、喜びを感じる。 (G) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわりや大切に思う気持ちをもつ。 (I) 絵本や物語に親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを通して、言葉で表現することを楽しむ。 (I) 言葉を通して先生や友達と心を通わせるようになる。 (J) 友達と一緒に表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わったりして、表現意欲が高まるようになる。</p>
言葉	
表現	

自分の作りたい泥団子のイメージをもち、イメージした泥団子がつくれるよう、水の量や土の種類を予測して試したり、失敗から新たな方法を考えたりして取り組む。

寒い朝に氷ができていないことに気付き、いろいろな形の容器を使ったり、いろいろな場所に置いたりして、氷ができてやすい容器や場所を試すことを楽しむ。

野菜を収穫し、収穫した量を数えて確かめたり、大きさや重さを比べて確かめたりしながら、多い・少ない、大きい・小さい、重い・軽いなどの言葉の意味を実感する。

竹馬や縄跳び、ボール遊び、鉄棒などの遊びに自分なりの目標をもって挑戦し、根気よく取り組むことで、目標が達成できた喜びを味わう。

お店屋さんごっこの遊びの中で、友達と進め方について相談したり役割を分担したり、必要なものを一緒に作ったりしながら、友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わう。

年少児や未就園児とのかかわりの中で、相手の事を思いやって接したり、手助けしたりする姿を感謝されたり、認められたりして、人の役に立つ喜びを感じる。

幼児教育支援委員会委員名簿

構成	所属	職名	氏名
学識経験者	神戸大学大学院	教授	伊藤 篤
	武庫川女子大学	教授	西本 望
	神戸松蔭女子学院大学	教授	春 豊子
幼稚園長会 関係者	兵庫県国公立幼稚園長会 神戸市立御影幼稚園	園長	平井 和恵
実践協力園	西宮市立子育て総合センター 付属あおぞら幼稚園	教諭	川本 真紀
	稲美町立加古幼稚園	園長	岩本 美幸
	宍粟市立神戸幼稚園	主任教諭	谷口 さゆり
	豊岡市立八条認定こども園	園長	柴垣 郁子

指導の手引き

幼児期と児童期の学びをつなぐ

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～

平成29（2017）年3月発行

編集発行 兵庫県教育委員会